

神根中だより

～歌声と笑顔あふれる学校～

令和3年10月号

学校教育目標
主体的に学ぶ、
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

失敗でなく経験

校長 松村 一人

私が中学校2年生の時の話です。学校の図書室で発明王エジソンの伝記を借りて読みました。エジソンが電球を発明したことは有名ですが、その電球のフィラメント（明るく光るところ）に何の素材を使ったら良いか、なかなか上手くいかずに、数千種類のいろいろな素材を試したそうです。電気が通りやすいものなら、たくさんの電流が流れてその材料はすぐに燃え尽きてしまいます。逆に電気が通りにくいものなら、電流がほとんど流れなくて光ることもありません。適度に電流が流れて、しかもなかなか燃え尽きない素材を見つけなければなりません。何度失敗を繰り返しても、エジソンは最後まで諦めず、最後は京都の竹で上手くいったそうです。

さて、1万種類目で適切な素材を見つけた（成功した）とすると、9999回目までは、失敗ということです。この考えは本当でしょうか？

Aという素材で失敗して、次にBという素材で成功したとします。「Aという素材で失敗」したのではなく、「Aという素材は適切でないと分かった」とも考えられます。

そして、Bという素材で成功したときに、「Aという素材では上手くいかなかった経験をした」と考えられませんか？

いやいやちょっと待ってください。「Bで成功したからAは失敗でなく経験」と書きましたが、Bで成功しなくても「Aという素材は不適切という経験した」と考えられませんか？

「未来の結果が決まって、過去の評価が決まる」のではなく、「現在、実行したことが経験」ではないでしょうか。

すなわち、何かにチャレンジしたけれど目標に届かなかった時、「上手くいかなかった。ダメだった。失敗した。」と捉えるのではなく、「経験できた」と前向きに捉えることができるのではないのでしょうか？

簡単に言うと何事も「失敗でなく経験」です。前任校の小学生に全校集会でこの話をしたところ、たくさんの学級でこんな現象がありました。ある児童が先生の質問に間違った答えを言ってしまったら、他の児童が「失敗でなく経験だよ」と答えを間違えた児童を励ましてくれたそうです。体育の跳び箱やマット運動でも、上手くできなくても「経験だよ経験！失敗じゃないよ！」と声をかける児童がいたそうです。

確かに私も一人の教師として、たくさんの失敗（でなく経験）をしてきました。でも、だからこそ、その失敗（でなく経験）を若手教員たちに伝えることができます。若手に限らず他の教員が失敗（でなく経験）したとしても、共感できるし、同じ立場に立つことができるのでしょ。

「失敗でなく経験」と捉えなおすことで、気持ちが楽になり、何にでも挑戦しようとする気概もわいてくるものです。皆さんも是非、心に留めていただければと思います。

*エジソンのイラストは、(株)日本ガイシ様のHPより、許可をいただいて引用しています。

